

こころ医療福祉専門学校佐世保校
令和3年度学校関係者評価委員会議事録

1 日時 令和3年5月23日(日) 11:20~12:00

2 場所 こころ医療福祉専門学校佐世保校 3階 会議室

3 委員 出席：田中秀樹(長崎県柔道整復師会佐世保支部)
上田陽介(純心整骨院)
藤原善行, 舘川大輔, 篠原卓也, 高田一樹, 鴨田亮平
欠席：井手浩二(いで整骨院)

(敬称略)

4 主な意見等

(1) 開会のことば(司会 舘川大輔)

本会の開会目的及び配付資料の確認を行う。

(2) 学校自己評価の説明と評価(本館課長 舘川大輔) 一別添資料による

学校自己評価報告書, 学校自己評価結果に係る評価書の説明を行う。

(3) 令和2年度学校自己評価結果に係る委員の評価書

特に問題なし・・・○

付帯意見あり・・・△

NO	点検項目	学校関係者評価
1	教育理念・目的・育成人材像	○
2	学校運営	○
3	教育活動	○
4	教育成果	○
5	学生支援	○
6	教育環境	△
7	学生の募集と受け入れ	○
8	財務	△
9	法令等の順守	○
10	社会貢献	○

5 令和2年度学校経営総括（本館課長 舘川大輔）

(1) 令和2年度事業報告

(良かった点)

- ア 学生が相談できる環境に満足しており，定期・不定期の面談が成果を生んだ。
- イ 設備が縮小したが，教員の熱意や事前準備で補うことができた。
- ウ 国家試験に向けた指導が，年間計画に基づき計画的に行うことができた。

(反省点)

- ア 卒業生との交流や勉強会・研修会が機能しておらず，支援ができていない。
- イ 退学者の減少対策に取り組む。
- ウ コロナ禍ということもあり，職員の指導力向上が思うようにできておらず，各教職員による見学授業にとどまった。
- エ 外部の整骨院との連携（情報交流，就職説明会，外部実習）がほとんどできていない。
- オ トレーナー活動やボランティア活動が行えず，学生の希望に添えていない。

(2) 国家試験合格率は88.2%であった。

(3) 就職率は100%である，うち県内就職率は47.1%であった。

(4) 令和2年度の退学者は6名であった。一本年度の課題としている。

(5) 佐世保校の令和3年度「学校教育目標」について一別紙による

- ア 入口の確保—新入生の確保
- イ 中身の充実
- ウ 出口の保障
- エ 佐世保校における日本語科の充実—安定した留学生事業の推進

(6) 意識して取り組む本年度の課題

- ア 国家試験合格率の向上
- イ 退学者減少のための対策と学校全体としての関わり
- ウ 入学者増のために広報と学科間の共有と会議の定例化
- エ 学生の学校生活満足度の向上
- オ 勉強する習慣に繋がる「授業の質」と「教育の質」の向上
- カ 「報告・連絡・相談」の徹底
- キ 留学生の計画的・組織的な指導体制の構築
(留学生会議，学校統一試験，JLPT 試験対策会議等)
- ク 各職員の仕事意識の啓発（昨年度より120%の成果達成）

6 委員意見

(田中委員) **学力不振での退学者は、勉強習慣が不足しているのか。**

(舘川) 勉強のやり方をヒヤリングした際に、今までやってきていないため、やり方がわからないと答える学生が多い。やり方を授業に取り入れているが、なかなか根付かない。そのため、「わからない」の意識が積み重なりモチベーションが下がってしまっている。

7 閉会のことば (校長 藤原善行)

分科会も含めて今回の会を充実した内容にさせていただき、感謝申し上げます。

学校としては「3つ」のことを考えている。

- ①学生や保護者の願いに応え得る教育を推進する。
- ②何事も、自分事意識をもって取り組む。一学びの主体性
- ③現場に強い「玄人」を育てる。

高校では、「学ぶ」、「わかる」、の2段階を通過すれば就職も進学も可能である。

専門学校では、「学ぶ」、「わかる」、「できる」、「身につく」までの指導が必要である。

柔道整復師という専門力を身につけ、人間力も備えた「人間としての総合力」を育むことを学校経営目標に掲げ、育成する人間像に位置付けている。

本日頂いた御意見、御提案については、学校で検討を加え、できることからやっていきたい。取り組み状況については、第2回教育課程編成委員会で報告させていただく。